

「日韓非正規労働フォーラム 二〇〇九」の開催

遠藤 公嗣 (明治大学教員・会員)

二〇〇九年二月三日から五日にかけて、韓国ソウル市(会場：中央大学

大学院国際会議室)で「日韓非正規労働フォーラム二〇〇九」とよぶ学術シ

ンポジウムを開催した。日韓あわせて約二〇〇名の参加者があり、盛会とい

ってよいと思う。日本からの参加者は五二名であった。研究者、弁護士、院

生のほか、コミュニティ・ユニオン全国ネット、連合(日本労働組合総連合

会)、全労連(全国労働組合総連合)、全労協(全国労働組合連絡協議会)な

どの実践家も参加した。私は日本側組織委員長としてフォーラムを主催する

立場にあった。フォーラムについて紹

介するとともに、その意義と将来について報告したい。

◇緊迫した前夜

日本側参加者だけの前日プログラムとして、三日午後に民主労総(全国民

主労働組合総連盟)本部への訪問があり、夜は韓国労総(韓国労働組合総連

盟)の招待によるレセプションが開催された。当初の予定では、韓国労総の

本部も訪問し、レセプションは両労総による招待のはずだったが、急遽、変

更されたのである。その理由は、両労総は労働政策改悪反対の共同闘争をし

ていたけれども、直前の二月一日に、韓国労総の闘争方針変換が明らかにな

り、両労総は激しく対立し、共同歩調が困難となったことである。三日は、鉄道労組がストライキ中でもあり、そのため道路は著しく混雑し、到着した民主労組本部の前には機動隊が配置されていた。イ・ミョンバク大統領の就任後から、政府と経営者の反労働組合姿勢がしだいに顕著になり、〇九年に入って、韓国の労使対立は激化の途をたどっている。その一端を、日本側参加者としてはからずも知ることとなった。

◇日韓の「非正規労働者」

日韓両国では、二〇〇〇年代以降、非正規労働者とワーキングプアが増加している。とりわけ、二〇〇八年の経済危機による非正規労働者の解雇および失業と差別拡大は、深刻な影響を社会に及ぼしている。両国の非正規労働問題の現象と原因を検討し、対策を模索するために、雇用モデル、政策、労働法、労働運動、社会保障、女性の六



国の法制と慣行の違いから、少し異なっている。また、韓国では非正規に男性労働者が多いのに対し、日本では女性労働者が多いという特徴がある。しかし両国には、非正規労働者は正規労働者より「劣等処遇」されるのが当然だとする社会意識がある点で一致している。この意味で、非正規労働者という概念は社会的産物なのだとはいえる。

非正規労働者の労働組合組織化の状況について、日韓両国をみると、韓国の「地域一般労組」は日本の「個人加盟ユニオン」に似た組織である。また、以下のような相違がある。韓国では、労働組合の全国組織（韓国労総と民主労総）および産別組織のオルガナイザーが非正規労働者の労働組合組織化に大きな役割をはたしていて、日本よりも本格的な組織化への着手が早かった。韓国では、間接雇用である下請け労働者が企業内組合を結成し、争議へと突入するケースがよくみられるようであるが、日本ではほとんどみられない。

◇問題解決のための連帯の宣言

本シンポジウムの意義は、このテーマについてはじめて、日韓の研究者と実践家が一堂に会し、深く検討する機

日韓非正規労働フォーラム2009 プログラム

- 第1セッション 非正規労働と雇用モデル 司会者：イ・ビョンフン（中央大学）
 ジョン・イファン（ソウル産業大学）「非正規労働と韓国雇用体制の性格」／討論者：横田伸子（山口大学）
 野村正實（東北大学）「『正規労働』と『非正規労働』？——日本における雇用バツファ」／討論者：チョ・ソンジェ（韓国労働研究院）
- 第2セッション 非正規労働と政策 司会者：中村和雄（京都弁護士会）
 ジョン・ビョンユ（韓神大学）「韓国非正規労働問題の実態と対策」／討論者：長井偉訓（愛媛大学）
 佐賀一進（金沢大学）「規制緩和と政策の展開と非正規労働——間接雇用を中心に」／討論者：イ・ホグン（全北大学）
- 第3セッション 非正規労働と法 司会者：ド・ジェヒョン（梨花女子大学）
 パク・スグン（漢陽大学）「韓国における非正規労働と法——契約職と派遣労働者を中心に」／討論者：萬井隆令（龍谷大学）
 脇田滋（龍谷大学）「労働法の規制緩和と非正規雇用——労働者派遣法を中心に」／カン・ソンテ（漢陽大学）
- 第4セッション 非正規労働と労働運動 司会者：阿部誠（大分大学）
 ウン・スミ（韓国労働研究院）「韓国非正規職労働者の組織化：現況、原因、対策」／討論者：木下武男（昭和女子大学）
 遠藤公嗣（明治大学）「非正規労働者の組織化——企業内組合と個人加盟ユニオン」／討論者：キム・ソンヒ（韓国非正規労働センター所長）
- 第5セッション 非正規労働と社会保障 司会者：シン・グァンヨン（中央大学）
 キム・ヨンミョン（中央大学）「韓国非正規職の社会保障実態と保護政策の方向」／討論者：武川正吾（東京大学）
 岩田正美（日本女子大学）「非正規労働者と第2のセーフティネットをめぐる」／討論者：ユン・ジョンヒヤン（韓国雇用情報院）
- 第6セッション 非正規労働と女性 司会者：松丸和夫（中央大学）
 クォン・ヘジャ（韓国雇用情報院）「女性の短時間非正規職勤務に長所はあるのか——女性の短時間勤務と他の非正規勤務の実態分析」／討論者：大槻奈巳（聖心女子大学）
 大沢真知子（日本女子大学）「日本のパートタイム労働者——その変遷と特徴」／討論者：シン・ギョニア（翰林大学）
- 総合討論 司会者：ユン・ジンホ（仁荷大学）
 討論者：キム・ユソン（韓国労働社会研究所） イ・ビョンフン（中央大学） 木本喜美子（一橋大学） 高須裕彦（一橋大学）

セッションと、総合討論が行われた。プログラムの概要は別記のとおりである。提出論文はすべて日韓両語に翻訳され、厚さ二センチもの予稿集として参加者に配布された。会議での報告も討論も、すべて日韓同時通訳であった。

報告と討論を聞いて感じたことから、以下の二つを紹介したい。

日韓両国とも、非正規労働者の定義は明確でない、というより、正確に定義できないのが実際のところである。韓国では、非正規労働者の定義と規模をめぐる論争がある。非正規労働者とみなされる労働者は、それぞれの

会をもったことになった。組織委員会としては「日韓非正規労働フォーラム二〇〇九は、認識を共有するための出発点であると同時に、問題解決のための連帯の宣言です。『最初のボタンを留めたが、その目的は達成できたのではないか、というのが私の感想である。』

終了の日の夜に、韓国側と今後についての簡単な話し合いの場をもった。「今回は日本で開催」「時期は今後に検討する」という合意を得た。本誌に関係するところでは、ジェンダー視点があるように感じている。次回はおそらく二〇一一年の開催になるが、「二番目のボタンを留める」ことができるようにしたいと考えている。

（えんどう こうし）